

## 防災教育を中心とした学校安全総合支援事業の取組について

### —キャリア発達の視点からの防災安全教育—

長野県木曾養護学校

## 1 はじめに

木曾養護学校は、全校児童生徒 30 名程の小規模校であるが、在籍する子どもたちは、北は塩尻市、南は南木曾町と広域から通学している。沿革史には、「子どもたちを生活する地域で育てたい」という木曾の人々の長年の願いと運動の結果、木曾養護学校の開校に至った旨が記されている。地区の「木曾養護学校協力会」は、開校以来毎年環境整備などに協力して下さっており、地区の皆さんの温かさとともに学校への思いを強く感じる。

校歌にも歌われる清流「八沢川」に象徴される木曾谷の豊かな自然は、子どもたちの豊かな感性を育む上で最適な環境であるのと同時に、近年の異常な気象の影響を受け、大規模な災害を引き起こす危険性も持ち合わせている。

学校目標である「地域につながり社会に参加・貢献できる児童生徒」を育むために、「一人一人に寄り添った教育」とともに「安心・安全な学校づくり」が大きな課題となっている。

本事業に過去4年取り組み、5年目という節目を迎える本年度は「児童生徒を中心に据えた防災安全教育による5年間のまとめ」「タイムラインの完成と地域との共有、合同避難訓練の実施」が課題となっていた。

## 2 本年度の取り組み（学校防災アドバイザーの関わり）

### (1) キャリア教育の視点から取り組んだ中学部地域探索学習「自然災害から命を守ろう」

昨年より大雨の災害が日本各地で起こり、山に囲まれた木曾地域も大雨のたびに災害の危険と隣り合わせの状況に陥ってきた。生徒の中からも「家の上の方が崩れなくてよかった。」「電車が通れなかったところを見たらすごかった。」と災害について心配したり、怖さを実感した声が上がったりしていた。

中学部では、昨年度の防災ポーチづくりで、緊急時に自分の命を守るために自分の気持ちを落ち着けるものを常に持っていることが役立つことを学んだ。今年度の1学期には、交通安全マップづくりで交通標識の意味を知り、友だちと協力して通学路にある標識をまとめた大きな地図を作ることができた。2学期は、これまでの学習を活かして、自分たちが住んでいる地域の中で、大雨による災害が心配される場所について具体的に理解し、防災への意識を高めていく学習に取り組むたいと考えた。実際に現場の写真を撮ったり、避難の仕方について具体的に調べたりして理解を深め、学んだことを家族や地域の方々に伝える活動をすることで、より主体的な学びになっていくのではないかと考えた。

生徒一人ひとりの実態や願いを共有し合い、個別の指導計画の内容や教育課題の決め出

しを中学部職員全員で検討した。今年度後期より個別の指導計画が新しい形式になった。各教科におけるねらいを明確化して記入するにあたり、個々の生徒の授業での様子を話し合い、複数の目で実態把握・生徒理解をおこなった。

木曾養護学校の本年度の全校研究テーマは「個の能力を伸ばす授業づくり～キャリア教育の視点から～」である。それを受け、中学部では、「生徒の姿を生かした授業づくり」という部研究テーマに基づいて、研究を進めてきた。単元のねらいを生徒個々に設定し、

その中で、キャリア教育の視点から、どのような点が当てはまるか検討した。授業のねらいから、将来につながる支援について、見出すことができた。

第1次第2時では防災アドバイザーの立正大学社会福祉学部白神晃子先生と、長野県建設部砂防課河野義隆さんをゲストティーチャーとしてお招きし、どのような場所で自然災害が起きるか、地域を巡りながら学習をした。その際、「危険」という視点だけでなく、「自分の好きな景色」「お気に入りの場所」という視点からも地域を見つめるようにした。個々の実態に合わせてグループ分けや取り組み内容を検討し、それぞれの生徒が意欲的に参加できるような授業を職員で検討した。当日は中信教育事務所学校教育課指導主事の赤尾隆善先生にご指導いただき、第2時の授業の中の生徒の姿から良かった点や課題点を教えていただいた。

### 展開の概要

時数	段階	主な活動内容 (○小単元名 ・ねらい)			
1	醸成の段階	○防災について知ろう ・オリエンテーションを行い、防災について知る。			
2		○学校周辺探索をしよう～白神先生と河野さんから学ぶ～ ・災害の危険がある場所の探し方を学ぶ。			
3		○じゅぬげの碑を見学しに行こう！ ・過去の災害を知る。			
4	単元の前半、単元の中盤	○地域探索をしよう ・学校周辺を探索し、災害の危険がある場所とお気に入りの場所を一つつける。			
5		防災マップを作ろう	○十の字マス作りをしよう (調べ学習) ・探索した場所の危険な要素と、避難場所をまとめる。		
6			○自分たちの防災マップを作ろう ・作ったマスを模造紙に貼り、絵や写真を加えて防災マップを作る。		
7				○防災学習のまとめをしよう ・防災マップを十の字マスとして使い、良さを知る。 ・発表に向けての準備をする。	
8					○地域の方に向けて、自分たちの防災マップを発表しよう
9					
10	○自分たちの防災マップを作ろう ・作ったマスを模造紙に貼り、絵や写真を加えて防災マップを作る。				
11		○防災学習のまとめをしよう ・防災マップを十の字マスとして使い、良さを知る。 ・発表に向けての準備をする。			
12	単元の終末		○地域の方に向けて、自分たちの防災マップを発表しよう		
13		地域の方へ発表しよう	○防災学習のまとめをしよう ・防災マップを十の字マスとして使い、良さを知る。 ・発表に向けての準備をする。		
14			○自分たちの防災マップを作ろう ・作ったマスを模造紙に貼り、絵や写真を加えて防災マップを作る。		
15	○地域の方に向けて、自分たちの防災マップを発表しよう				



防災アドバイザー 白神先生 河野さん



中信教育事務所赤尾先生



学校周辺（木曾町伊谷地区）の探索



南木曾町じゃぬけの碑見学

第2次 11 時間目では「自分たちの防災マップを作ろう」という小単元で中学部の生徒が自分たちの学習成果を「防災すごろく」（防災マップ）にまとめ上げる場面から校内研究を実施した。

指導者の赤尾先生からは、「自助・共助・公助」の観点から防災教育のあり方をまとめていただくとともに、「今の学びと将来をつなぐ」という観点から、キャリア教育と防災教育の関連についてもご指導いただいた。

コロナウィルス感染症も少し落ち着いてきた時期でもあったため、この授業は県内各特別支援学校に参加を呼び掛けることができ、保健厚生課倉坪先生はじめ、飯田養護学校、上田養護学校、松本盲学校、伊那養護学校から先生方をお迎えできた。公開授業の後に行われた実践委員会では、授業に基づいた意見交換とともに、各校の取り組みの様子や課題などについても共有することができ、有意義な会となった。



「防災すごろく」（防災マップ）

## （2）タイムラインの完成

昨年度、木曾町、伊谷地区、学校（安全係・教務・PTA）の三者でタイムライン作成会議を実施した。そして職員研修の中でタイムライン作成研修をおこなった。それらの成果として、手元に付箋を貼りつけられた模造紙が数枚残っており、本年度はスクールサポートスタッフに依頼し、模造紙上の情報を電子化することからタイムライン作成を開始した。

電子化したものをもとに、教頭が「暫定版」を作成。それを各部に配布し、小学部、中学部、高等部、寄宿舎では、在籍児童生徒の実態に照らし合わせ、部としての動きを付け加えた。

11月4日（木）の防災アドバイザー来校（中学部授業第1次第2時）に合わせて、タイムライン作成研修を実施した。（参加者は、各部の防災係と教務、白神先生、河野さん）部ごとに持ち帰って検討した部分を発表し、それについてアドバイザーからご指導をいただいた。

この研修の成果を安全主任がまとめてタイムラインに盛り込み、2年越しの課題であったタイムラインを完成させることができた。

遠回りをしたような気もするが、多角的に検討し、いったん広げたものを、アドバイスをいただきながら徐々にまとめていくことで、より本校の子どもたちの実態に即したタイムラインになったと考える。

**木曽養護学校タイムライン（暫定版）**

【基本的取組方針】

- ① 児童生徒より安全自衛階で保護者に引き渡す  
（廊下等、道内それぞれ一處ごとに左右生徒の遠くの廊下・放送室状況、携帯子機時刻を想定し、早急に対応する）
- ② 対応し難い保護者の安全も考え、空想的、強制的に余裕を持った避難を行う  
③ 状況の悪化が予想される場合、警備員については、レベル2で保護者連絡、引き渡すことを選択する
- ④ 警視レベル3から積極的に避難誘導を判断する（状況の状況に応じ、より安全のための避難行動をとる）

本番担当職員  
（伊谷区長）

二次避難所の情報  
木曽養護高等学校  
住所：木曽町塩高1827-2  
電話番号：0264-22-2119

避難のフェーズ	発生・自然・地震	避難サポートチームの動き	避難行動チームの動き	教務員の動き	保護者の動き	本番担当伊谷区長
警視レベル1 早期避難準備	心拍高・発汗・呼吸困難の発生 ① 避難準備 ② 避難開始	<通報内容> □タイムラインの確認【教務】 □避難経路、誘導の準備、引き渡しの手配【教務、教務、教務、教務】 □生徒数確認等【オフレングラー】 【教務】		<通報内容> □タイムラインの確認 □タイムラインの確認		□タイムラインの確認
警視レベル2 大規模な避難	心拍高・発汗・呼吸困難の発生 ① 避難準備 ② 避難開始 ③ 避難完了	<通報内容> □大規模な避難の発生・発生時の対応【教務、教務】 □対応状況の確認【教務】  □状況、状況の把握【教務】 □状況、状況の把握【教務】	□状況、状況の把握【教務、教務、教務、教務】 □状況の把握【オフレングラー】 【教務】	□通報内容 □状況の把握【教務、教務、教務、教務】 □状況の把握【オフレングラー】 【教務】	□状況の把握【教務、教務、教務、教務】 □状況の把握【オフレングラー】 【教務】	□状況の把握【教務、教務、教務、教務】 □状況の把握【オフレングラー】 【教務】
	心拍高・発汗・呼吸困難の発生 ① 避難準備 ② 避難開始 ③ 避難完了	<通報内容> □状況の把握【教務、教務、教務、教務】 □状況の把握【オフレングラー】 【教務】	□状況の把握【教務、教務、教務、教務】 □状況の把握【オフレングラー】 【教務】	□状況の把握【教務、教務、教務、教務】 □状況の把握【オフレングラー】 【教務】	□状況の把握【教務、教務、教務、教務】 □状況の把握【オフレングラー】 【教務】	□状況の把握【教務、教務、教務、教務】 □状況の把握【オフレングラー】 【教務】

### （3）学校防災まとめの会

中学部防災学習の最終（第3次15次時）として、12月17日（金）に学校防災まとめの会を実施した。

木曽町（総務課、福祉課）伊谷地区（区長、副区長）学校評議員、防災アドバイザー（白神先生、河野さん）保健厚生課（倉坪先生）など関係各位にご出席いただき、中学部生徒が自分たちの学習の様子をスライドで発表したのちに、実際に自分たちの作った防災すごろくを出席者に体験していただいた。

その他、学校側からは5年間の取り組みの成果と課題を発表し、完成したタイムラインを公開した。

防災アドバイザーの県砂防課



中学部生徒の学習発表

河野義隆さんからは「すごろくに学校の周りの様子が描かれており、地域の特性が分かり良い取組である。タイムラインについては作ったから終わりではなく、使って避難訓練で運用し更新していくことが大切である。」というご指導をいただいた。また、立正大学白神晃子先生からは、「自然が豊かなところは危険と隣り合わせでもある。学校も地域も一緒に助かり、安心して災害があってもできるだけ日常と同じ生活を送っていけるような準備をしていけばよいのではないか。子どもたちに支援が必要で地域にも高齢者が多いというのは必ずしも『弱い』ということではなく、もっとよりよい状況でなければ避難所生活はできないということである。早めに対策しておかなければならないところに着目することができる側面もあるため、こうした学校の取組や地域の取組を継続してもらいたい」というご指導をいただいた。



参加者による防災すごろく体験

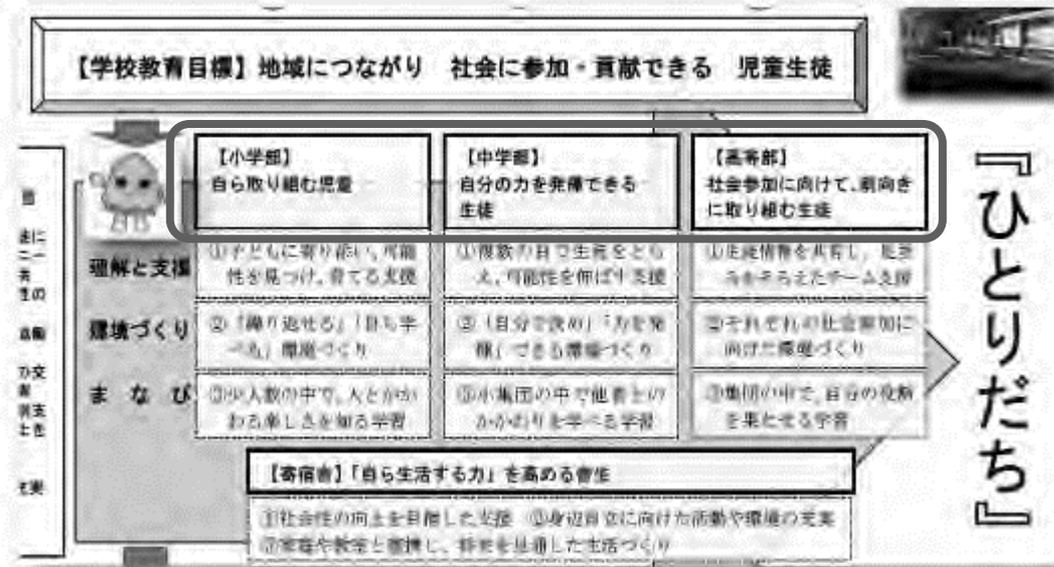
### 3 本年度の成果と課題

全校研究テーマ「個の能力を伸ばす授業づくり～キャリア教育の視点から」とリンクさせ防災安全教育を推進することで、児童生徒を中心に据えた防災安全教育による5年間のまとめを行うことができたことが、本年度の成果である。また懸案の「タイムライン」を完成できたことも成果と位置付けたい。

5年の節目を迎えたが、今後も可能であれば防災アドバイザーのご指導を受けながら、以下のような点を課題に防災安全教育に取り組んでいきたい。

#### 課題（1）各部の実態に応じた日常的な防災教育の展開

例えば「高等部の防災ポーチづくり」「中学部の地域探索」は、各部の目標と照らしても、子どもたちが主体的に取り組む活動として位置づけることができるが、小学部の子どもたちにとっての、防災安全の学習は「主体的な取り組み」の段階にまでは高められていないように思われる。本年度、コロナのため実施できなかった県の出前講座「防災ダック」の派遣などを活用し、小学部の子どもたちが興味をもって自ら学ぶことができる防災の授業の在り方を検討していく必要がある。



各部の目標（ランドデザインより）

## 課題（２）地域との更なる連携、助け合える体制づくり

令和３年度も地域合同避難訓練を計画していたが、新型コロナウイルス感染防止のため実施することはできなかった。その代わりに、９月１日の地震を想定した防災訓練は、写真のように木曽養護学校を会場に地域と時間をずらして実施し、校長、教頭、教務主任は双方に参加した。

令和４年度は９月１日の訓練を「学校」「伊谷地区」「木曽町」三者連携による「合同避難訓練」と位置づけるとともに、地震を想定したタイムラインの作成も行いたい。

タイムラインを三者で共有し、今後活用できる形に改良していく必要も感じている。

（ 文責 教頭 春日 康志 ）



（令和３年９月１日 10:30 伊谷地区避難訓練）



11:16 木曽養護学校避難訓練）

## 飯山養護学校における防災教育の充実に向けた取組について

～学校防災アドバイザー派遣・活用事業の具体～

長野県飯山養護学校

### 1 はじめに

飯山養護学校は、北信圏域初の特別支援学校として平成3年に開校し、今年度開校31周年を迎えた。田園と緑の山に囲まれた自然環境の中に立地している長野県最北端の特別支援学校である。冬には積雪が1mを超えることもあり、避難経路の雪かきが職員の毎日の日課でもある。

今年度は小学部16名、中学部20名、高等部35名、合計71名の児童生徒が、「わくわく」「げんき」「えがお」あふれる学校を合言葉に、学校生活を送っている。

本校は西に千曲川、東に樽川があり、ハザードマップでは浸水深5m以上想定のある区域にある。令和元年の台風19号では避難指示が発令された地域でもあり、日頃から防災意識を高め、自分の身は自分で守ろうとする力を育てていきたい。



校門から校舎へ（1月の風景）

### 2 飯山養護学校の防災教育について

「学校安全総合支援事業」4年目の本年度。学校防災アドバイザーの先生から定期的に助言をいただきながら防災体制を整えてきている。今年度は避難訓練に加え、水害時保護者引き渡し訓練（2年目）と職員研修（「本校の水害リスクについて」）を行った。

#### (1) 今年度の避難訓練（学校）

回	月日	災害想定	避難想定
1	4/9	火災時	避難経路の確認と二次避難場所への避難
2	9/27	緊急地震速報システム利用	予告なし（休み時間に実施） 自営消防団係活動・不明児童生徒の捜索（職員）
3	1/14	冬の火災時	積雪のため校庭へ避難できない場合の避難

#### (2) 今年度の避難訓練（寄宿舎）

回	月日	災害想定	避難想定
1	4/12	火災時	避難経路の確認
2	6/28	夜間火災時	野坂田地区との合同訓練
3	9/7	緊急地震速報システム利用	予告なし
4	1/17	冬の火災時	積雪時の避難

(3) 水害時保護者引き渡し訓練 7月2日

(4) 職員研修「飯山養護学校の水害リスクについて」7月2日

(5) 地震体験（地震体験車）9月（新型コロナ感染対策のため中止）

(6) 防災プログラム（日本赤十字社）9月（新型コロナ感染対策のため中止）→担任授業

### 3 学校防災アドバイザーの関わり

#### (1) 水害時保護者引き渡し訓練 7月2日(金)

講師：小林 卓生 氏（千曲川河川事務所防災情報課長）

想定：大雨洪水警報が継続しており、飯山市から警戒レベル3が発令された

訓練の流れ：①学校は保護者の迎え依頼のオクレンジャーを送信

②保護者は学校到着予定時刻を学校へ返信

③車誘導職員は、迎えに来た家庭の児童生徒名をトランシーバーで各副部長へ連絡

④副部長は、各クラス担任へ迎えのあった児童生徒名を連絡

⑤担任は玄関まで児童生徒と移動

⑥担任は児童生徒が保護者の車に乗り込んだところまで見届け部長へ報告



迎えが来るまでの時間、ビデオ鑑賞しながら待つ小学部低学年クラス



迎えに来た車を誘導する職員、保護者名を確認し、トランシーバーで副部長へ連絡する職員



副部長から迎えが来た知らせを受け、担任は児童生徒と一緒に玄関へ向かう



迎えの車に乗り込む高等部生徒



玄関前で車を誘導する職員

〈来年度に向けて〉

- ・全家庭が想定内の時間（90分）以内に迎えが完了した。
- ・更なるレベルアップのために、学校職員が抜けてしまう場合（職員が自分の家族を迎えに行く等）や時間内に迎えがなかった場合の2次避難（城南中学校）を想定しておきたい。
- ・非常持ち出し物品リストの作成と持ち出す分担を決めておく。
- ・誘導職員の仕事をカードにしておき、だれでもその仕事ができるようにしておきたい。
- ・連絡をとりにくい家庭の洗い出しと対処方法を事前に考えておく。
- ・医療的ケア児童生徒の常備品、備蓄品、避難方法等についてつめておく。

#### (2) 職員研修「飯山養護学校の水害リスク」 7月2日(金)

講師：小林 卓生 氏（千曲川河川事務所情報課長）



本校の実態に合わせた資料をもとに、約1時間講義いただいた



千曲川立ヶ花水位観測所における洪水危険レベル



本校の浸水深（5m～10m）ハザードマップより

〈感想より〉

- ・引き渡し訓練の後の研修だったため、その反省点等を教えていただき、よかった。
- ・本校は、浸水継続時間が2週間未満の地域で垂直避難よりもより高い場所へ避難することが大切であることを教えていただけた。
- ・新しい防災アプリ（キキクル）等を教えていただけてよかった。
- ・地域の水害リスクについてお話いただけて、身近な危険を知ることができた。

(3)校内危険個所の確認 8月6日（金） 講師：白神晃子先生 参加：安全防災係  
校内危険個所について直接ご指導いただく予定だったところ、新型コロナウイルス感染警戒レベルが上がったため、Zoomでご指導をいただくことになった。



玄関自動ドアのガラスが強化ガラスかどうか確認した



棚は、滑り止めシート、突っ張り棒、飛散防止フィルムの整備を



プレイルームのおもちゃは滑り止めシートを敷き、車の向きを変える

〈白神先生からのご指導〉

- ・可動式テレビ、可動式電子黒板等は移動しないようにチェーンで止める。
- ・戸棚のガラスに飛散防止シートを貼る。
- ・棚の物が出ないように、滑り止めシートを敷くとよい。重い物は下に。おもちゃを置く向きを配慮を（車のおもちゃは飛び出さないように横向きに）。
- ・物が多い部屋は断捨離をする。
- ・電子レンジや冷蔵庫は固定する。

#### 4 事業の成果（○）及び今後の課題・来年度の取り組み（△）

- タイムラインをもとに水害時引き渡し避難訓練を行い、学校防災アドバイザー（千曲川河川事務所）に実際の訓練を参観後、アドバイスをいただくことができた。
- 水害時引き渡し訓練と職員研修「飯山養護学校の水害リスクについて」を組み合わせることで、より水害についての知識が深まり、水害時の避難についても身近に感じる事ができた。
- 「安全スペース」を設置し、休み時間など職員の誘導がないときの避難場所であることを確認し、避難訓練で実際に体験することができた。
- 日赤の防災授業を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大のため中止となった。その代わりに事前にいただいていた資料をもとに担当が授業を行い、すべてのクラスで防災授業を実施できた。
- △登下校時の避難についてシュミレーションしておく。
- △危険個所の指導をしていただいたことで、具体的な課題がわかった。滑り止めシート、突っ張り棒、キャスター固定のための鎖など、段階的、計画的に購入と整備をすすめていく。
- △医療的ケア児童生徒の常備品や持出品のリスト作成と準備、避難マニュアルの作成を行う。



避難訓練事前学習で、安全スペースを確認する中学部生徒

（文責 教頭 丸山 妙子）

コロナ禍における避難訓練の実施と

諏訪圏域の土砂災害が発生した場合の諏訪養護学校の対応について

～地域との連携を意識した土台づくり～

長野県諏訪養護学校

## 1 はじめに

諏訪養護学校のある富士見町は、諏訪地域の東端で、長野県と山梨県の境に位置している。防災の視点から見ると、糸魚川―静岡構造線が富士見町を二分している。富士見町が作成している防災マップでは、本校の立地場所は土砂災害や建築被害のハザードマップにおける警戒区域や特別警戒区域からは外れている。しかしながら、本校は諏訪地区6市町村から児童生徒が登校してきており、2021年に岡谷市で大きな土砂災害が起きていることを考えると、大雨による被災にむけて備えをしておく必要があり、本事業を活用しながら整備を進めていきたいと考えた。

## 2 本事業を活用した本年度の取組

- (1) コロナ禍における避難訓練について
- (2) 災害時における地域との連携に向けて
- (3) 大雨洪水警報に対する本校の対応について

## 3 学校防災アドバイザーのかかわり

- (1) コロナ禍における避難訓練の在り方について

### ①従来の避難訓練

これまでの新型コロナウイルス感染症の流行前までは、主として年に3回の避難訓練を実施していた。4月に実施する1回目は火災想定での訓練であり、避難経路の確認を主たる目的としていた。9月に実施する2回目は地震想定とし、放送を聞き、机の下に入り、揺れが収まったところで校庭に避難する訓練を実施した。3年前から下校時には保護者への引渡訓練を兼ねるようにした。11月に実施する3回目は、暖房機器の取り扱いが始まることを受け、火災想定での訓練を実施し、火の取扱注意を呼びかけてきた。本事業において導入されたシステムを活用し、地震想定での初動訓練のみのショート訓練の導入も少しずつ実施してきている。

### ②コロナ禍で実施する避難訓練

コロナ禍で児童生徒が入り交じる状況を回避したり、密を避けたりする必要が出てきた。しかし、万一に備えて避難訓練は実施しておく必要があるため、本事業を活用しアドバイザーの方にご助言をいただきながら、コロナ禍における避難訓練につ

いて計画・実施・反省を繰り返しながらコロナ禍における避難訓練を充実させていくことにした。まずは、各避難訓練の実施目的を見直し、それに合った想定を設定した。

第1回	目的：避難経路の確認	想定：火災想定（予告あり）
	工夫：1年生及び教室の場所が大きく変わった学級のみ避難	
第2回	目的：地震時の初期動作の確認	想定：地震想定（日のみ予告）
	工夫：システム利用 初期動作のみ（避難なし） 地震に関する資料掲示	
第3回	目的：初期動作から避難誘導 二次避難から引き渡し	想定：地震想定（予告あり）
	【アドバイザー参観・指導】 工夫：避難誘導場所の間隔を広げる。参集は短時間にする。 二次避難場所・待機場所を分散し、部ごとの引渡を実施する。	
第4回	目的：休み時間における避難行動	想定：火災想定（予告なし）
	工夫：活動場所がバラバラになっている昼休みに設定 避難指示の放送内容の工夫（行動指示を含めた放送） 避難誘導場所の間隔を広げる。参集は短時間にする。	
第5回	目的：地震時の初期動作の確認	想定：地震想定（週のみ予告）
	工夫：システム利用 初期動作のみ（避難なし）	
第6回	目的：地震時の初期動作の確認	想定：地震想定（予告なし）
	工夫：システム利用 初期動作のみ（避難なし）	

### ③第3回避難訓練に参加いただいた学校防災アドバイザーからの助言

#### ○コロナ禍における避難訓練について

密にならないことに留意しながら工夫した取組になっている。システムを活用したショート訓練も3年目になるが初動に対する理解が進んできていると聞き、成果として考えている。

#### ○第3回 避難訓練について

- ・引き渡し訓練に関して、災害時には職員の手は足りすぎることはない。色分けした掲示で誘導職員を減らす工夫や、人数が減ってきたら引渡場所を絞っていく工夫など、避難所の運営に人手を回していける準備が必要である。
- ・今回は保護者にも予め連絡がしてあったが、非常時の一斉メッセージ配信システムを活用し、受信からの引渡訓練も実施できるとよい。
- ・二次避難場所や待機場所での時間の過ごし方を確認。ライフラインが遮断されてしまう場合もありテレビは使えないこともある。
- ・引き渡しの際のトラブル（リスト外の人物への引渡など）も実際の現場では起きる。リストの活用を徹底することも訓練の中でやっておくとよい。

#### (2) 地域との連携について

- ・地域の方の参加していただくのは双方にとって必要なことである。地域の自治会との連携も進めていけると良い。第3回の避難訓練では見学と一部参加ではあつ

たが今後も勧めていけると良い。

- ・福祉避難所ではないが、富士見町と同等の協定が結ばれていることや、災害時には一部地域の住民の受入はあり得ることを全校で周知しておく必要がある。

### (3) 地域との連携について

- ・諏訪養護学校はその立地場所から考えて、諏訪圏域の大雨災害警報や土砂災害警報に関する備えを準備しておくことは良いことである。タイムラインなど作成する場合には協力できる。

## 4 まとめと来年度への課題

学校防災アドバイザーからのご助言を受け、初期動作の定着を目的としたショート訓練の実施を継続している。意図せず富士見町の防災訓練の防災無線が聞こえてきた際、活動中の児童生徒が一旦静かになり放送に耳を傾ける姿が見られた。普段からの訓練の成果ともいえる良い姿であった。

寄宿舎では夜間の災害に備え、地域のみなさんに協力していただく避難訓練を実施してきている。しかし、コロナ禍で昨年からは実施できていない状況にある。本年度の引き渡し訓練に一部参加していただいた実践や、地域参加型の寄宿舎の避難訓練の実践を参考に、地域との連携を具体的に進めていきたいと考えている。

諏訪圏域の大雨災害警報や土砂災害警報に関する諏訪養護学校としての備えについては、土砂災害警戒情報や大雨特別警報の発令に併せた、引き渡しや避難所の開設を想定したタイムラインの作成を、学校防災アドバイザーの協力を得ながら試みたいと考えている。また、避難所の開設に備えて、本年度は職員のみで避難所開設の研修として避難所運営ゲーム（HUG）を実施した。次回は地域の方にも参加していただき研修を重ねていくことも検討したい。

来年度は、コロナ禍における避難訓練を積み重ねていく中で、地域との連携の機会を増やしたり、非常時の一斉メッセージ配信システムを活用したりしながら、学校と家庭、地域が一体となって取り組める防災教育の充実、そして、諏訪圏域の大雨災害警報や土砂災害警報に対する学校の対応をより具体にしていけることを課題としたい。



避難所運営ゲーム（HUG）は、被災者情報やイベント情報に対応しながら避難所の運営シミュレーションをするカードゲームです。諏訪養護学校が舞台となる諏訪養 Ver. を実施しました。

（文責 教頭 柳澤 徹）

タイムライン（学校防災行動計画）に基づいた避難や防災意識を高めるための取組

－ 特別支援学校における防災計画と防災教育のあり方 －

長野県上田養護学校

## 1 はじめに

本校は上田市の東部、東御市に近い地域にある知的障がい特別支援学校で、開校 43 年を迎えた本校には、小学部・中学部・高等部・訪問教育部に 226 名（令和 3 年 12 月現在）の児童生徒が在籍している。学校のすぐ横には冬、白鳥が飛来する千曲川が流れ、その土手では小中学部の児童生徒が散歩をしたり、高等部の生徒は毎日の日課の中でマラソンを行ったりして、学校生活を送っている。

しかしながら、この自然豊かな千曲川が、時には私たちに牙をむき危険な場所となることも事実である。令和



土手を挟んで左が千曲川、右が本校小中学部棟

元年、台風 19 号の際には、すぐ近くの地域で越水が見られ、主要道路を結ぶ橋が、台風によって流される被災の現状が見られた。また、本校の立地場所は、長和町から上田市丸子地域を流れてくる依田川との合流地点があり、北側には千曲川に流れ込む瀬沢川もあり、すぐ近くに 3 つの河川が流れている状況である。そのため、大雨等で千曲川の水位が上がった場合には、早い段階でのタイムライン（学校防災行動計画）に沿った対応が必要不可欠と考えられる。

今年度も引き続き、「学校安全総合支援事業」として、学校防災支援アドバイザーの立正大学 白神晃子先生に助言をいただきながらタイムライン（学校防災行動計画）に沿った引き渡し訓練の実施を地域の方々や消防団の方々の協力をいただきながら実践したり、防災授業を行ったりして防災に対する意識づけを大切にして進めてきた。

## 2 長野県上田養護学校の防災体制について（概要）

「学校防災計画」「危機管理マニュアル」によって、災害時の防災に備えている。防災組織は、本部、連絡、消火、搬出、救護、安全確認、避難誘導の 7 つの係を編成し、全職員で組織している。また、年度当初に学校運営計画にて計画している避難訓練、引き渡し訓練、緊急地震速報対応訓練を実施した。

## 3 学校防災アドバイザーの関わり

### （1）タイムライン（学校防災行動計画）の周知

令和 2 年、職員用のタイムラインと保護者用のタイムラインを配布し、周知することができた。今年度、学校防災アドバイザーの方からタイムラインに各部の動きを追記し、児童生徒によって違う動きを共通認識するために話し合う必要があること、警戒レベル 1 の前段階で本部を立ち上げる際に集まる

職員は具体的に誰が集まるのか、職員の動きの確認をシュミレーションして明記することを教えていただいた。修正したタイムラインを基にした実践とともに、タイムラインを初めて見た人が一目で動き方がわかるよう見直し・更新を毎年実施したい。

#### (2) タイムラインの計画に沿った引き渡し訓練

今年度は、避難判断水位の引き下げにより学校待機時間を60分までとした。また、60分後からは第二次避難場所にスクールバスで移動することも実施した。訓練時において、児童・生徒は事前学習を行っていたため落ち着いて行動できていた。また、各部の緻密な計画案に沿って交通誘導の配置や方法に従って実施できた。上田市第10分団消防団の方々も来校して下さり、中学部はスクールバスを利用した生徒の安全確保がされておりドライブスルー方式でスムーズな引き渡しだったことを認めてもらった。情報の伝達についても無線交信や声による伝達がスムーズに行えた。

しかし、学校周辺の渋滞緩和の工夫が必要不可欠となった。そのための工夫として、各部のカラーを決め色分けした氏名ボードを用意することや誘導係人数を増員し、トランシーバーの数も増やすことを早急に整備する必要性が明らかになった。また、アドバイザーの方から今年度同様、第二次避難場所へ移動する訓練を必ず行い、残留児童生徒の人数の掌握や職員の動きをシュミレーションをしておくことが必要不可欠になると教えていただいた。また、来年度は実際に避難所の各施設に入り施設内の様子を知ることが大切だとアドバイスをいただいた。

#### (3) 避難訓練・緊急地震速報対応訓練

地震に対する備えとしての教室環境整備が課題であったが、避難訓練や緊急地震速報対応訓練の事前確認を通して教室環境を整備することを意識づけ取り組むことができた。落下物がないか確認したり、安全スペースを確保したりして職員の意識の変化も感じることができた。

#### (4) 児童生徒の実態に合わせた視覚支援と防災授業

知的障がいや自閉スペクトラム症の特性がある児童生徒の実態に合わせた視覚支援や防災授業を昨年の反省を生かしながら検討を重ね、PowerPointを中心とした視覚支援教材や授業展開の内容を係内で吟味し、各学級の職員に教材提供することができた。今後は更なる定着を目指し、各訓練での活用を図っていきたい。

### 4 事業の成果及び今後の課題

#### 「今年度の事業の成果」

- ・学校防災アドバイザーから児童・生徒の実態に応じてタイムラインを毎年修正・更新を行うことで、全校の動きの他、各部の動きの詳細が把握でき、さらなる安全につながることを教えていただいた。また、職員の動きも事前にシュミレーションしておく必要があることを再確認することができた。
- ・避難訓練や引き渡し訓練前に、事前に訓練内容を視覚支援で児童生徒に伝え提示することで、児童・生徒や職員も落ち着いて取り組むことができた。
- ・昨年度までは「放送が鳴って驚いた」「放送がこわかった」という感想が多くみられたが、今年度はこわがらず放送を聞き、次に自分のとるべき避難方法を指示されたとおりに行動に移せた。
- ・ダンゴムシのポーズや机の脚を対角線上に持つことを事前学習しておいたことで、机の下に隠れる行動が11月の緊急地震速報対応訓練では、昨年度よりもスムーズに机にもぐるできるようになった児童生徒が多く見られた。

## 「今後の課題」

### 【引き渡し訓練】

- ・学校防災アドバイザーの方にアドバイスをいただいたことを元に、引き渡し訓練を行った。より確実な保護者への引き渡しが可能になるよう引き渡しにおける交通対策や引き渡し簿の見直し、常設すべき校内誘導看板の工夫等、さらなる安全対策を講じたい。

### 【防災学習】

- ・防災学習の授業を通して的確にアドバイスをいただき、防災学習の必要性や改善点が明らかになった。より学校内に防災意識を広めていくためにも、まずは各部に応じた防災に関する授業を位置づけていく必要がある。災害から身を守る方法を繰り返し学ぶこと、日常と異なる避難所での生活に備えておくことは、障がいのある児童生徒にとって重要である。防災教育を通して身を守る術を児童生徒だけでなく、家族や学校職員も含めた周りの支援者と一緒に考えていきたい。

### 【地震への対策・避難訓練】

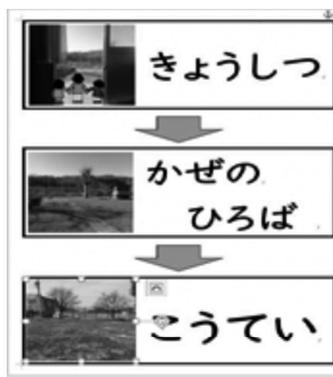
- ・教室での安全な場所の確保や備品の固定など安全な環境作りを行っていく。給食台等の日常的に使い、かつ各教室によって置き場所が違うものを固定することは難しい。どのように対応していったらよいか各訓練前の検討が必要である。
- ・引き続き、ショート訓練を行い、行動の仕方や各場所の安全地帯を忘れないようにしていく。
- ・校外で災害に遭った場合の対処の仕方についても大型絵本等を使用して、視覚支援を基にした実践を探っていきたい。

## 5 まとめ

学校防災アドバイザーの方にご助言いただき課題が見えた1年だった。また、来年度取り組まなければならない課題が明確になった。職員だけでなく、児童生徒を含めた学校全体として、防災への意識が高まってきていると感じられる。今後も、高まった防災意識を絶やさず、見えた課題を一つひとつクリアしながら、安心安全な学校を目指していきたい。

## 6 参考資料「視覚支援を用いた避難経路図」

## 「視覚支援を用いた緊急地震速報対応訓練 powerpoint」



(文責 自立活動専任・防災安全係主任 伊藤 泰子)